

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会報」読者の皆様へお知らせ

2014年8月18日から連日13回にわたり、北海道新聞の夕刊紙面の、「私のなかの歴史」で、「ヒグマ研究45年」と言う題で、私(門崎允昭)が、私の「ヒグマについての考え、人と熊の共存策」等を口述、編集委員の「中尾 吉清」さんが取材文章化し、掲載されました。その第5回目、8月22日(土曜日)掲載をここに再録しますので、ぜひ、お読み下さい。

2014年(平成26年)8月22

私のなかの 歴史

私は生態調査の結果から、人に対するヒグマの行動を、次の9種類に分類しています。

- ①人と遭遇しないよう、注意しながら行動する
- ②人が来たら、身を潜めるか移動する
- ③人と遭遇したら、すぐに身を翻し離れていく
- ④その場でしばらく人の様子をうかがう。立ち上がることもある
- ⑤少し近づいて来ることもある。人の様子をうかがい、なかなか

動物学者

かどさき
門崎

まさあき
允昭さん

ヒグマ研究45年 ⑤

1936年の事故で、医師が図解した負傷部位の一部



か離れていかないこともある
⑥前記⑤で、その後、瞬時に身を翻し去る場合と、ゆっくり離れ

襲われたら

「死んだふり」より応戦を

ていく場合がある

⑦脅しに、瞬時に人に突進して人の数分前で止まり、一瞬ほえるなどする。また、瞬時に後退し、やおら歩いて去ることがある

⑧クマの以前の生活地で、

今も周囲に草木があり、しかも人が危害を加えないと分かれば、平気でその場において離れようということがある

⑨まれに人を襲う。瞬時に襲いかかるのと、にじり寄る場合とがある

人間はどう対応すべきでしょう

う。距離が30メートルあれば、まずは安心です。不意の出会いを避けるため早く人がいることに気付いてもらうのが肝心。ササやぶ、見通しの悪い道では笛を吹いたり「ホッ、ホッ」と声を上げます。

母グマがわざわざ幼い子グマを連れて人や車に近づいて来る場合があります。⑤のパターンに該当します。この行動を、私は子グマに人間のことを教えている、と思うのです。母子の間に割って入るのは危険です。母子はその後、⑥の行動に移ります。

④⑤⑥の行動が「人を恐れない新世代グマ」などとマスコミで表現されますが、見当外れも甚だしい。昔からの、クマのごく普通の行動です。登山道などでは穏やかに声をかけ、30メートルの距離を保って回り道すれば問題は起きません。

⑦の行動に対して、走って逃げるなどの大きな動作は禁物。気を強く持ち、ナタを構え、戦う覚悟を決めてください。ゆっくり後ずさりするのはいいです。

さて⑨の場合、「死んだふり」はどうでしょう。私が生還した方に聞き取りした結果、これで助かったという方はゼロでした。戦うしかありません。

過去の文献にある「死んだふり」例を参考にしましょう。江戸時代末期の1864年、オホーツク管

内斜里町でアイヌ民族の青年が至近距離で出会い、死んだふり。額から頭にかけて2、3回ガリガリかまれ左耳がもぎ取られた。

1925年（大正14年）、釧路管内厚岸町で男性が2度かまれ、もう駄目だと判断して起き直り、ナタをクマの顔面にたたきつける。クマは逃げた。

36年（昭和11年）11月、同じく厚岸町で、被害者は47歳の男性。医師が、負傷部位の図解を残しています。頭部、顔面、両腕、胸、背中、腰など、傷は58カ所にもなりました。

死んだふりをして、このような攻撃を受けるのです。あなたは黙って耐え抜くことができますか。ほかの人にも勧めますか。

（聞き手・中尾吉清）